

第1問 武士の成長について、問に答えよ。(22)

地方に成長した有力農民は、やがて武装し従者を率いて武士となった。これらの武士は闘争を繰り返す連合体を結成し、中央貴族の血筋をひくものを(1)にいただいて、武士団となっていた。なかでも(2)源氏の流れに属し、(3)の乱を941年に鎮圧した(A)の一族は(B)が摂津に土着していたが、息子たちが摂関家に近づき、その保護のもとに中央での地位を高めた。こうして、源氏が中央政界での地位を高めている間に、(4)平氏は関東一円に大きな勢力を張っていった。しかし、10世紀前半に平将門が一族の内紛を契機として反乱を起こしたのに続いて、(5)年にも房総半島一帯で(6)が反乱を起こして鎮圧され、源氏が東国に進出するきっかけとなった。

この頃、陸奥では安倍氏が強大な勢力を誇っており、しばしば国司の命にそむいたため(C)は陸奥守兼鎮守府将軍として任地に下り、出羽の豪族(7)氏の援助を受けてこれを滅ぼした。この事件を(8)とよぶ。その後、鎮守府将軍として大きな勢力を得るようになった(7)氏一族に兄弟間の内紛が起こると、当時陸奥守だった(D)はこれに介入し、(9)をたすけて内紛を平定したが、源氏が強大になりすぎることとを恐れた朝廷は、彼に昇殿の榮譽を与えただけで、恩賞を与えなかった。しかし彼は、長期間ともに戦ったことや私財をなげうって家来に恩賞を与えたことから東国武士の信頼を得て、武家の(1)としての地位を固めることになった。

問1 文中の(1)～(9)に適語を記入せよ。

問2 文中の空欄(A)～(D)に該当する人物を、系図から選んで記号で答えよ。

ア経基 — イ満仲 — ウ頼信 — オ頼義 — カ義家 — ク義親 — コ為義 — サ義朝
 └ エ頼光 └ キ義光 └ ケ義国

第2問 院政について、(1) - (16)に入る語句を記号で選び、あとの問に答えよ。(20)

1068年、三条天皇の皇女禎子内親王を母とする(1)天皇が即位した。すでに壮年に達し、個性の強かった天皇は、(2)らの人材を登用し、摂関家にはばかりことなく国政の改革に取り組んだ。とくに荘園の増加が公領を圧迫しているとみた天皇は、1 きびしい内容の荘園の整理令を出した。この整理令の実施は、国司任せでなく、太政官内に(3)をもうけ、荘園の所有者から証拠書類を提出させた。これと国司の報告とを合わせて、2 基準に合わない荘園を停止した。

1086年、白河天皇は、にわかにならぬ幼少の(4)天皇に譲位した後、みずから上皇として(5)をひらき天皇の後見しながら、政治の実権をにぎる院政の道を開いた。上皇は荘園整理を歓迎する国司歴任者である(6)層を支持勢力に取り込み、院の御所に(7)をおいて武士団を組織するなど、院の権力を強化し、やがて本格的な院政を始めた。白河上皇のあとも、(8)上皇・後白河上皇と3上皇の院政が100年あまり続き、法や慣例にこだわらずに、上皇が政治の実権を行使した。上皇の意向を伝える(9)や院庁から出された(10)は、政治的にも次第に強い権威をもった。3上皇は仏教をあつく信仰し、出家して(11)となり、法勝寺をはじめとする(12)など多くの大寺院や堂塔・仏像をつくり、しばしば紀伊の(13)や高野詣でをくりかえし、盛大な法会を行った。これらの費用を調達するために官職が売買され、政治の乱れは激しさを増した。

上皇のまわりには任国で富を蓄えた(6)や后妃・乳母の一族など、(14)とよばれる一団があつまり、上皇の力をかりて収益の豊かな国の国司などの官職に任命された。このころには一国の支配権と公領からの収益を(15)国主が得る(15)国制度が広まって、公領は(15)国主や国司の私領のようになり、院政を支える基盤となった。院政のもう一つの基盤は大量の荘園である。とくに(8)上皇の時代には、院に荘園の寄進が集中したばかりでなく、有力貴族や大寺社への寄進が著しく増加した。また、大寺社は、多くの荘園を所有し、下級の僧侶や神職を(16)・神人として組織し、国司と争ったり、3神木や神輿を先頭にたてて朝廷に強訴を行い、主張を通そうとした。かつて鎮護国家をとんでいた大寺社のこうした行動は、権力者が各種の私的な勢力に分裂し、法によらずに実力で争うという院政期の特色をよくあらわしている。

(語群)ア．院庁 イ．院宣 ウ．院庁下文 エ．院近臣 オ．大官大寺 カ．六勝寺
キ．南面の武士 ク．北面の武士 ケ．西面の武士 コ．大江広元 サ．大江匡房
シ．僧兵 ス．知行 セ．鳥羽 ソ．堀河 タ．後三条 チ．受領 ツ．記録荘園券契所
テ．法皇 ト．海田 ナ．矢野 ニ．熊野

問1 下線1に関して、この荘園整理令をなんとよぶか。

問2 下線2に関して、この時の基準として適切なものを次から2つ選べ。

ア．902年以降の新立荘園の停止 イ．国務に妨げあるものの停止

ウ．公私が共同利用の山林・原野の独占禁止 エ．1045年以降の新立荘園の禁止

問3 下線3に関して、白河法皇は「鴨川の水，双六のさい，山法師は思い通りにならぬ」と言ったという。山法師とはどこの寺院の下級僧侶のことか。

第3問 平氏の発展と滅亡について(1) - (20)に入る語句を記号で選べ。(20)

院政期にめざましい発展を示したのが桓武平氏の一族であった。なかでも白河院政のもとで(1)は源義親を討って武名をあげ、その子の(2)は瀬戸内海の高橋平定で鳥羽法皇の信任を得て、武士として、また院近臣としても重く用いられるようになった。このような祖父や父の功績を背景にして、飛躍的に勢力を伸ばしたのが平清盛であった。

1156年、鳥羽法皇の死後間もなく、法皇の立場を受け継いだ後白河天皇と、法皇と不和であった崇徳上皇とが、皇位継承を巡って対立した。これに摂関家の権力争いが加わって、たがいに源平の武士を招いて武力で解決をはかったために起こったのが保元の乱である。そののち、院政を始めた後白河上皇の近臣間の対立から1159年に平治の乱が起こった。この2つの乱を通じて、貴族社会内部の争いも武士の実力で解決されることが明らかとなり、清盛の地位と権力は急速に高まった。平治の乱後、わずかの間に平清盛は(3)の地位に就任し、一族も高位高官にのぼって、平氏の勢力は並ぶものがないありさまとなった。

平清盛は、地方で成長してきた武士の一部を、荘園や公領の現地支配者である(4)に任命して家人とし、しかも一方で院近臣の立場を利用して、娘徳子を高倉天皇の中宮とした。また経済的基盤としても数多くの知行国と500余りの荘園を所有し、(5)との貿易にも積極的であったが、その政権は著しく摂関家に似たものがあった。そのため排除された旧勢力は強い反感を持ち、院近臣たちが平氏打倒の計画を立てるようになった。1177年、俊寛の山荘で平氏打倒の計画が立てられたが失敗し、清盛は関係者を厳しく処罰した。この事件を(6)という。さらに

清盛は1179年に後白河法皇を幽閉し、両者の対立は決定的となった。

1180年、平氏の専制に対して後白河法皇の皇子(7)は(8)とともに挙兵し、令旨を諸国の武士に伝えたがまもなく敗死した。しかし、これに応じて各地の源氏らが次々と立ち上がり、大寺院の僧兵もこれに応じた。この情勢をみた平氏は、1180年6月にいったんは(9)に遷都したものの、まもなく京都に戻った。

こうして内乱が全国に広まるなか、清盛の病死と畿内や西国を中心とする養和の大飢饉も重なって、平氏はいたるところで戦いに敗れ、1183年には(10)天皇を奉じて西国に都落ちした。これを追って平氏を滅亡に追いやったのは、相模の(11)に本拠をおいた(12)であった。彼はまず、平氏の都落ちの後入京を果たした(13)を討ち、つづいて西に逃れる平氏を長門の壇ノ浦の戦いで全滅させた。この5年間にわたる内乱を当時の年号から(14)の乱という。

この間、1183年には朝廷から東国支配権を認められ、さらに1185年には守護・地頭の任命権を獲得した。1189年には奥州藤原氏を滅ぼし、1190年には上洛して右近衛大将となり、さらに1192年に後白河法皇が亡くなった後に(15)に任じられた。ここに鎌倉幕府は名実ともに成立した。

鎌倉幕府の支配機構として、1180年に(16)が置かれた。これは(17)を統制する機関で、初代別当は和田義盛だった。また1183年には一般政務や財政を扱う(18)と、訴訟を扱う(19)も置かれた。守護の任務には「(20)催促・謀叛人逮捕・殺害人逮捕」があり、これを大犯3カ条といった。

(語群) ア・大番 イ・侍所 ウ・問注所 エ・公文所 オ・鎌倉 カ・横浜
キ・福原京 ク・藤原京 ケ・鹿ヶ谷の陰謀 コ・源高明 サ・源義仲 シ・源頼朝
ス・源義経 セ・源頼政 ソ・源静 タ・宋 チ・明 ツ・治承・寿永 テ・安德
ト・以仁王 ナ・御家人 ニ・太政大臣 ヌ・地頭 ネ・平忠盛 ノ・平正盛
ハ・征夷大將軍

第4問 次の史料を読んで後の問に答えよ。(10)

鹿子木の事

- 一、当寺の相承は、(A)沙弥寿妙嫡々相伝の次第なり。
- 一、寿妙の末流高方の時、權威を借らむがために、実政卿(当時太宰大貳)を以て(B)と号し、年貢四百石を以て割き分ち、高方は庄家領掌進退の預所職となる。
- 一、実政の末流の願西微力の間、コクガの乱暴を防がず。この故に願西、(B)の得分二百石を以て、高陽院内親王(鳥羽天皇の娘)に寄進す。件の宮薨去の後、御菩提の為に、勝功德院を立てられ、かの二百石を寄せらる。其の後、美福門院(鳥羽天皇の皇后)の御計として御室(仁和寺)に進付せらる。これ則ち(C)の始めなり。

問1 文中の(A)～(C)に適語を記入せよ。なおAは漢字4字、BとCは漢字2字である。

問2 下線部のカタカナを漢字に直せ。

問3 資料中の人物関係を図示すると右のようになる。次の人物は図中い～へのどれに該当すると考えられるか。

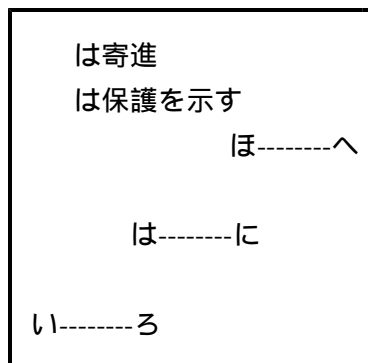
- (ア) 願西 (イ) 高陽院内親王 (ウ) 実政
(エ) 寿妙

問4 鹿子木庄の所在地はどこか、次から選べ。

- ア. 武蔵 イ. 肥後 ウ. 常陸 エ. 大和

問5 その所在地は現在の何県に当たるか、次から選べ。

- ア. 埼玉県 イ. 熊本県 ウ. 茨城県 エ. 奈良県



第5問 平安時代の文化について写真を参考にして答えよ。(18)

問1 次の文は平安時代中期の文学作品の一節である。設問に答えよ。

春は曙よねえ！

だんだん白うなっていく山の上の空が少し明るうなって、
(1)っほい雲が細うたなびいとるんよ。

夏は夜よねえ。

月の頃はなおさらよねえ。

闇夜で、(2)がっほい飛んどのゆうのもええよね。

ほいから、ほんまにひとつかふたつかくらいが、ぼんやり光って行くんもええし、雨
なんか降るんもええね。

秋は夕暮れじゃね。

夕日がさして、山の端にものすごい近うなったところに、からすが寝るところに帰る
ゆうて3羽4羽、1羽2羽とか飛んで急いで行くんでさえ、ええよ。ましてや、雁なん
かがつながったのがものすごい小そう見えるんも、ものすごいええよね。日が沈みき
つて、(3)なんか聞こえるのも、たまらんわいね！

冬は早朝よね。雪が降ったときなんかはもちろんじゃし、霜のすごい白いのもええね。

ほいから、そうじゃのうても、ものすごい寒いけえゆうて火なんかを急いでおこして、
炭の火を持って歩いていくんも、ぴったりじゃと思うよ。昼になって温(ぬく)うな
って寒気がだんだんと和らいできたら、火鉢の火も白い灰ばかりになって、さえんよね。

(現代語訳・高山望)

設問1 (1)～(3)に入る語を記号で答えよ。

- (1)ア．黒 イ．白 ウ．赤 エ．紫 オ．金
(2)ア．蛩 イ．こうもり ウ．蝶 エ．トンボ
(3)ア．歌声 イ．詩を朗読する声 ウ．風の音や虫の声

設問2 この作品の作者を次から選べ。

- ア．枕草子 イ．藤原定子 ウ．和泉式部 エ．清少納言

設問3 この作品の作者のことを、紫式部はどのように評しているか、次から一つ選べ。

- ア．漢文学の知識をひけらかす軽薄な人間で、将来はろくなことがないだろう。
イ．風格のある歌を詠む人だが、格別すぐれた歌人とはいえない。
ウ．手紙のやりとりは巧みだが、歌というものが十分にはわかっていない。
エ．学問を身につけてきたが、その知識をひけらかすことなく、目立たないように心がけている。

問2 次の日記文学のうち、作者が女性でないものを一つ選べ。

- ア．和泉式部日記 イ．蜻蛉日記 ウ．土佐日記
エ．十六夜日記 オ．更級日記

問3 『往生要集』を著して、浄土にいたるための念仏の方法を示した僧は誰か。

問4

設問1 Aは藤原頼通の別荘を寺にしたものである。この寺の名を漢字3字で答えよ。

設問2 その寺にある阿弥陀堂の名称を漢字3字で答えよ。

設問3 Bはその阿弥陀堂の本尊である。作者は誰か。

設問4 Bのように、仏像の身体をいくつかの部分に分けて別々に彫り、後で寄せ合わせる技法を何というか。

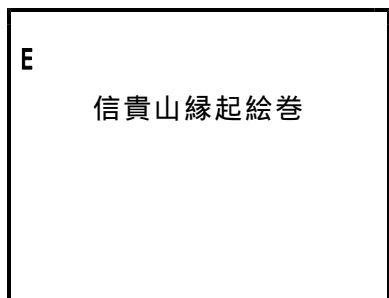
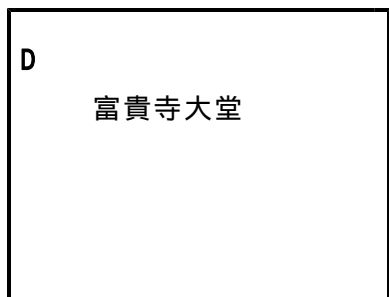
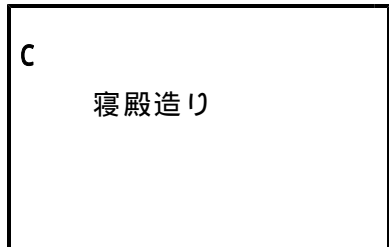
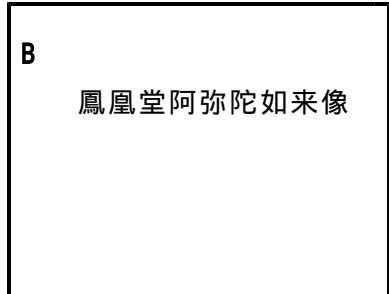
問5 Cはこの時代の貴族の邸宅である。何という建築様式か。

問6 Dは九州に建てられた阿弥陀堂の一つである。名称を選べ。

- ア．白水阿弥陀堂 イ．富貴寺大堂 ウ．中尊寺金色堂

問7 Eは平安末期の絵巻物の代表作である。名称を選べ。

- ア．信貴山縁起絵巻 イ．鳥獣戯画 ウ．伴大納言絵詞 エ．源氏物語絵巻



問8 次の文は何を説明したものが、適切なものを記号で選べ。

- (1) 扇紙に大和絵で当時の風俗を描き、経文を添えたもの。
- (2) 後白河法皇が当時の流行歌謡を集めたもの。
- (3) 日本、中国、インドなどの説話を1000以上集めた説話集。
- (4) 平氏が厳島神社に奉納した華麗なお経。

(語群) ア．扇面古写経 イ．伊曾保物語 ウ．今昔物語集 エ．大鏡 オ．栄華物語
カ．梁塵秘抄 キ．平家納経

第6問 以下はセンター試験過去問である(ただし一部改作してある)。問に答えよ。(10)

(1) 武士が台頭してくる時期の、武士(武家)の棟梁について述べた文として誤っているものを、次から一つ選べ。

- ア．国術の支配を廃止して、地方の小武士団を統合していった。
- イ．院や摂関家の軍事力として登用されることで勢力を伸ばした。
- ウ．天皇や貴族の血筋を引いていることが重要であった。
- エ．平忠盛や源頼義は、その代表的な人物である。

(2) 次のA - Cは、時代の特色をよくあらわしている歌および言葉を、古いものから年代順に配列したものである。下のa, bの事件が起こった時期について述べた文として正しいものを一つ選べ。

- A あおによし ならのみやこは さくはなの におふがとごく いまさかりなり
- B このよをば わがよとぞおもふ もちづきの かけたることも なしとおもへば
- C このいちもんにあらざらむひとは、みなにんびにんなるべし

a．承和の変 b．後三年の役

- ア．aは、Aの「ならのみやこ」の時代より前に起こった事件である。
- イ．aは、Cの「いちもん」の全盛時代以後に起こった事件である。
- ウ．bは、Aの「ならのみやこ」の時代と、Bの作者が「わがよ」と歌った時代の間に関した事件である。
- エ．bは、Bの作者が「わがよ」と歌った時代と、Cの「いちもん」の全盛時代の間に関した事件である。

(3) 平安時代になると、漢字から「ひらがな」や「かたかな」が生まれた。平安時代における、かな文字の普及について述べた文として誤っているものを、次から一つ選べ。

- ア．かな文字が発明されると、公的な行政文書にももっぱらかなが用いられ、かな文学隆盛の土壌となった。
- イ．かな文字は、感情や感覚の表現をより繊細にし、男女とも和歌にはかな文字を用いるようになった。
- ウ．女性はかな文字を使うのがふつうであった。
- エ．土佐日記はかな文字の日記文学である。

(4) 国風文化について述べた文として正しいものを一つ選べ。

- ア . 唐風の服装にかわる正装として , 男子の十二単 , 女子の束帯が用いられた。
- イ . 貴族は陰陽道を重んじたため , その日常生活には方違えや物忌みなどの慣習が広まった。
- ウ . 書院造りが発達し , 建物内部の屏風やふすまには当時流行した大和絵が描かれた。
- エ . 和歌が社交の手段としてもはやされ , 『万葉集』が編纂された。

(5) 摂関時代の地方政治の様相について述べた文として正しいものを次から一つ選べ。

- ア . 任国に赴任せず , 代わりに目代を派遣して政務にあたらせる遙任の国司が多くなった。
- イ . 国衙では , 国司に代わって , その地方の豪族から選ばれた本家・領家という役人が行政の実務にあたった。
- ウ . 尾張国では , 国司藤原秀衡がその暴政によって郡司・百姓から訴えられ , 停職させられた。
- エ . 地方政治に果たす郡司の役割が大きくなり , 有力な郡司の中には知行国主となる者が現れた。